

太良峡は藤琴川の澄んだ水が創り上げた 51 ヘクタールの渓谷である。深さが 30 メートル以上あるこの渓谷は、白神山地の高地から雪解け水を運んでくる。ブナと樹齢 200 年のスギが山の斜面に密生して並んでいる。

この渓谷は世界自然遺産地域の保護区の外にあるが、その生態はよく似ている。森には、ミズナラ、トチノキ、数種のマツなど、全部で約 100 種類の樹木がある。この地域には 10 種類以上の食用山菜が育つ。また、マタビなどの果樹もある。マタビはキウイフルーツの仲間で、その葉は、夏に白くなる。マタビは時に「キャットパウダー」と呼ばれることもあり、イヌハッカよりも強い陶酔効果を猫にもたらず。ラズベリーの一種であるエビガライチゴもここで育つ。甘くて赤い果実は、森に棲むツキノワグマの好物であることから、地元ではクマのいちごという意味で「クマイちご」と呼ばれている。

クマのほかに、ニホンザルやニホンモンガが太良の森に棲んでいる。オオルリやヤマセミが木と木の間を飛び交う。じめじめした林床には、たくさんのキノコ類が育ち、黄色の細い指の形をしたナギナタケなどがある。食用のマイタケは、たくさんのひだをつけてミズナラの木の幹に生える。

太良峡周辺の山々では、1958 年まで垂鉛、鉛、銅、すずの採掘が行われており、一部の地域では今でも線路やかつての製錬施設のレンガの煙突が見られる。渓谷には 20 世紀半ばまで人が住んでおり、この地域の若いスギの多くはその頃に植えられたのである。

渓谷を見るには、渓谷にまたがる高さ 30 メートルの太良橋の近くに駐車し、橋から絶景を眺めることができる。渓谷へ下りるハイキングコースは、岳岱自然観察教育林への道の途中にある太良橋を過ぎた約 3km の地点からはじまる。このハイキングコースは、往復 1km 弱で、藤琴川沿いの人里離れた場所に通じており、巨大な岩があるので、ピクニックをしたり、泳いだりするのに適している。澄んだ水は、深いところでは美しい青色になり、川の色とりどりの岩の上を流れる。多くは緑色凝灰岩で、美しい青緑色の色相の堆積岩でできている。すぐ上流にある位牌岩と呼ばれる大きな石板は、仏教の位牌に似ていることからそのように名付けられた。かつてハイキングコースは位牌石の先まで続いていたが、2013 年に起こった地滑りにより、最後の 0.5km が崩れてしまった。

ハイキングコースはかつての伐採道のルートをたどり、場所によっては滑りやすく急勾配になっている。観光客によっては、足元が険しいと感じるかもしれない。